

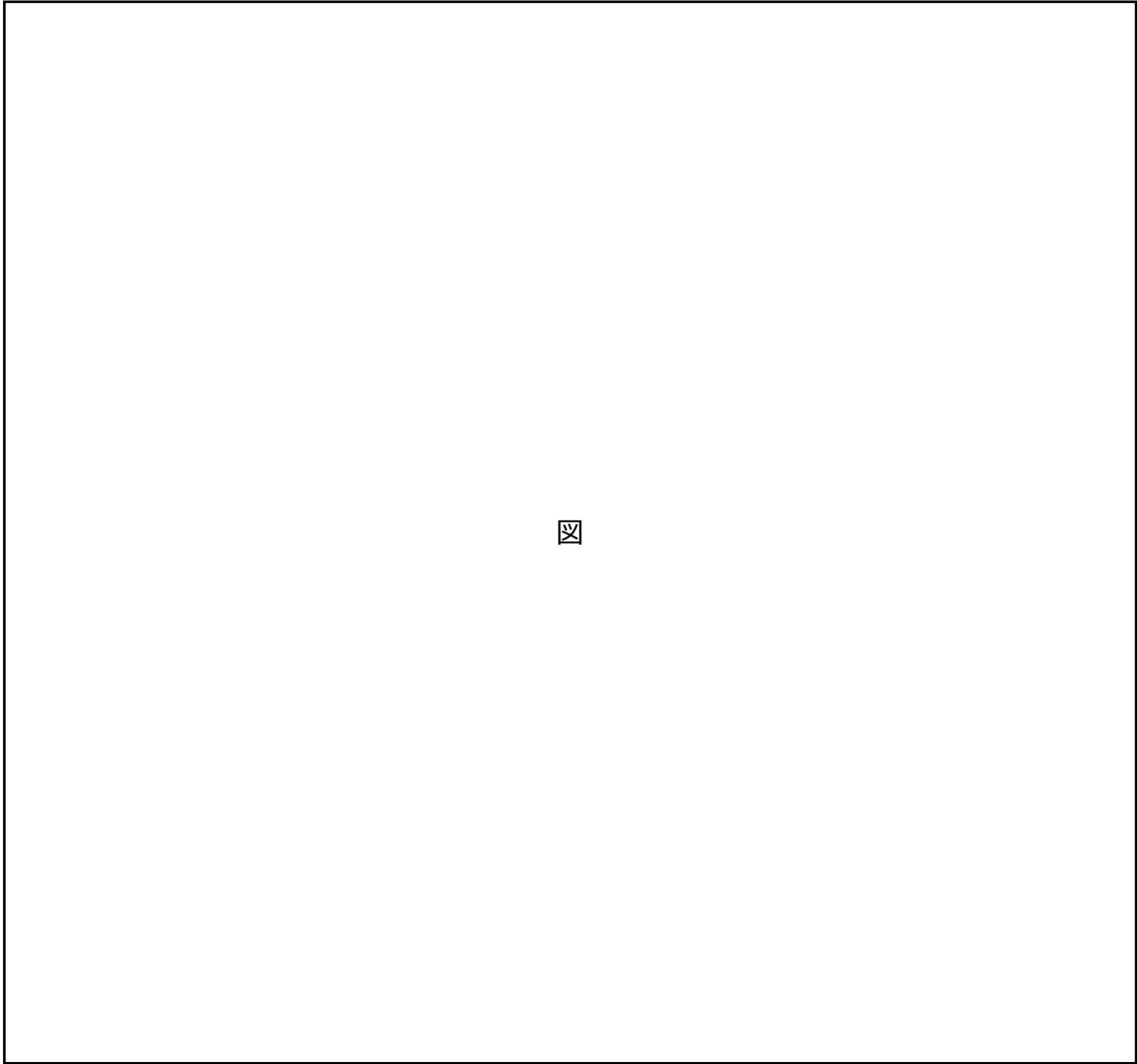
文化芸術分野の施策(案)

4. 文化芸術分野

(1) 文化芸術とは

障害の有無や年齢等に関わらず、だれもが親しみをもち、多岐にわたる「みる(鑑賞・観覧等)」、「する(活動・参加等)」、「ささえる(普及・継承・指導等)」行動を文化芸術ととらえます。

【文化芸術分野のイメージ図】



図

(2) 基本方針

①だれもが楽しめる機会の創出

文化芸術を身近に感じ、だれもがそれぞれの興味や関心に応じて楽しむことができるよう、広く情報発信に努めるとともに、多様な文化芸術に触れる機会の充実と参加しやすい環境づくりを進めます。

②文化芸術をささえる人材育成と環境整備

文化芸術活動を将来にわたって継承していくため、次代を担う世代が文化芸術に親しむ機会を充実させるとともに、担い手の育成や多様な主体との連携・協働により、活動を継続できる環境づくりに取り組みます。

③文化資源を活かした取組の強化

多彩な文化資源の魅力を広く発信し、資源を活かした体験や交流、地域団体等との連携を進めるとともに、関連する分野と連携し、地域への愛着につながる活用を図ります。

(3) 施策

文化芸術分野の施策体系は以下のとおりです。

分野	基本方針	施策
文化芸術	① だれもが楽しめる機会の創出	
		ア だれもが触れる機会の拡充
		イ 幅広い情報発信による参加しやすい環境づくり
		ウ 多様な価値観に寄り添う文化芸術活動の推進
	② 文化芸術をささえる人材育成と環境整備	
		ア 次代を担う世代の活動機会の充実
		イ 活動を継承する担い手育成
		ウ 多様な協働の創出と活動環境の拡充
	③ 文化資源を活かした取組の強化	
		ア さらなる文化資源の魅力の発信
		イ 資源の有効活用による体験・交流の推進
		ウ 分野間で連携した文化資源の活用

①だれもが楽しめる機会の創出

指標	現状値	目標値

ア だれもが触れる機会の拡充

文化芸術を身近に感じ、その魅力や楽しさを知るためには、日頃から気軽に触れる機会が重要です。

区民が優れた文化芸術を鑑賞できるコンサートや企画展等を「みる」だけでなく、区民参加型の文化芸術活動の実施により「する」を推進します。

取組の例

■多様な文化芸術に触れる機会の充実

コンサートや企画展、能楽鑑賞会等を通じて、区民が多様な文化芸術を身近に鑑賞し、その魅力や楽しさに触れる機会を充実させます。また、街なかのオープンスペース等の活用により、身近な場所で文化芸術に触れられる機会づくりを進めます。

■区民参加型の文化芸術イベントの継続実施、参加者層の拡大

秋の文化祭や各種大会等を継続して開催するとともに、幅広い世代の区民が参加し、日頃の文化芸術活動の成果を発表できる機会の充実を図ります。特に、若い世代の参加を促し、継続的な文化芸術活動への参加や世代を越えたつながりにつなげます。

■文化施設を気軽に楽しむ機会の充実

公演前のリハーサル公開やロビーコンサート、制作過程の紹介など、完成した作品を鑑賞するだけでなく、文化芸術の現場やその魅力を気軽に触れられる機会を充実します。

これらの取組により、これまで文化施設を利用する機会の少なかったこどもや、若い世代が足を運ぶきっかけづくりを進めます。

イ 幅広い情報発信による参加しやすい環境づくり

文化芸術への関心を実際の鑑賞や活動につなげるためには、それぞれの世代や関心に応じた情報が重要です。

SNS 等の多様な媒体を活用し、幅広い世代に効果的に情報を届けることで、文化芸術に触れ、気軽に参加するきっかけをつくります。

取組の例

■多世代に届く効果的な情報発信

文化芸術に関する事業やイベント、活動等について、紙媒体とデジタル媒体それぞれの特性を活かしながら、対象となる世代や興味・関心に応じてわかりやすく情報を発信し、鑑賞や活動への参加につなげます。

区報をはじめとした広報紙、文化施設等での情報提供機会を積極的に活用し、多世代に情報が届く環境を整えます。

■SNS 等の活用

SNS 等の多様な媒体を活用し、若い世代をはじめとする幅広い世代に、文化芸術の魅力や関係者の声等を効果的・継続的に発信し、関心を引き出し参加につなげます。また、公演・展示の開催情報に加えて、出演者・制作者・参加者の声、制作過程やリハーサルの様子など、文化芸術を身近に感じられる情報の発信を進めます。

■大学等との連携による情報発信

大学等との連携を通じて、こどもや若い世代に文化芸術に関する情報を届けます。学校を通じた情報提供に加え、既存のネットワークを活用し、鑑賞や活動への参加につながる接点を広げます。

ウ 多様な価値観に寄り添う文化芸術活動の推進

年齢や障害の有無、国籍や文化的背景等に関わらず、だれもが文化芸術を楽しむためには、それぞれの状況やニーズに応じて参加できる機会や環境が必要です。

文化芸術に参加・発表できる機会を充実させるとともに、オンライン等も活用し、多様な形で文化芸術に触れ、楽しめる環境を整えます。

取組の例

■区民の発表機会や活動の場の提供

区民が日頃の文化芸術活動の成果を発表し、活動を継続できるよう、発表機会や活動の場を提供します。中でも、次代を担う若い世代の参加拡大に向けて、区内大学等の文化芸術系サークルとのつながりを活かした参加機会の充実に努めます。

■こども向け文化芸術体験プログラムの実施

こどもが様々な文化芸術に触れ、その魅力や楽しさを体験できるプログラムを実施し、継続して文化芸術に親しみ、活動するきっかけをつくります。体験を一過性のものとせず、年代や関心に応じて関連する講座や地域の文化芸術活動へつなげ、こどもの頃から継続して文化芸術に親しめる環境づくりを進めます。

推進にあたっては、学習活動や子育て支援事業等との連携を図ります。

■障害の有無等に配慮した鑑賞・参加機会の充実

だれもが文化芸術を楽しめるよう、多様なニーズに配慮し、鑑賞・参加の機会を生活の身近な場所に広げていきます。また、一人ひとりの個性や多様な表現に触れ、互いに楽しみ合える機会の充実に努めます。

設備面での対応に加え、対話やワークショップ形式による作品鑑賞の取組、音声ガイドや触図資料の提供、オンラインの活用等を積極的に取り入れ、推進していきます。高齢者が安心して鑑賞・参加できる環境づくりも引き続き推進します。

また、様々な事情から外出が難しい層に対するアウトリーチ事業を強化し、福祉施設、病院、学校等へ出向いて、文化芸術と触れあう機会づくりを推進します。

■オンライン等も活用した文化芸術の発信・鑑賞機会の提供

オンライン等の活用により、場所や状況に関わらず、文化芸術に触れられる環境を整えます。デジタル上で文化芸術に触れた人が、実際の鑑賞や参加へとつながるきっかけづくりにも取り組みます。

②文化芸術をささえる人材育成と環境整備

指標	現状値	目標値

ア 次代を担う世代の活動機会の充実

文化芸術を次の世代へつないでいくためには、若い世代が早い段階からその魅力に触れ、継続して関わるきっかけをつくることが重要です。

本区の文化資源を活かし、文化芸術団体等との連携を進めることで、能やかると等の伝統文化をはじめとした文化芸術を体験し親しむ機会を充実させます。

取組の例

■能、かるた等の伝統文化に親しむ機会の提供

能やかると等、区にゆかりのある伝統文化を鑑賞・体験する機会を提供し、こどもや若い世代がその魅力に親しみ、次代へ受け継ぐことへの関心を育むきっかけをつくります。

■学校や関係団体と連携した文化芸術体験の実施

学校や文化芸術団体等と連携することで、こどもや若い世代が多様な文化芸術に触れる機会を増やすとともに、地域の文化芸術に関わる団体・人との交流の場が充実します。

また、関係部課との情報共有・連携を図りながら、地域で文化芸術活動を継続できる機会の充実につなげます。

■体験から継続的な活動につなげる仕組みづくり

文化芸術体験を一度限りで終わらせず、参加者の年代や興味・関心に応じて、関連する講座やイベント、地域の文化芸術団体等の活動へつなげます。特に、高校生や大学生が、成長に伴って文化芸術活動から離れることなく、自分に合った形で継続して関われる機会を広げます。

イ 活動を継承する担い手育成

文化芸術活動を継続・発展させていくためには、活動する人だけでなく、指導や運営等、様々な形でささえる人材を育てていくことが重要です。

文化芸術団体等と連携し、活動や運営ノウハウの継承を進めるとともに、文化芸術活動を担い、ささえる人材の育成を推進します。

取組の例

■文化芸術団体との協働による担い手育成事業の実施

文化芸術団体等との協働を通じて、活動や運営に関する知識・ノウハウの継承を図るとともに、指導者やボランティア等、文化芸術活動を担い、ささえる人材を育成し、継続して活動できる環境づくりにつなげます。特に、実際に活動する若手・中堅の担い手との交流を通じて、若い世代が文化芸術の魅力や活動の面白さに触れ、自らの関心や得意分野に応じた関わり方を見つけるきっかけづくりに取り組みます。

■文化芸術活動をささえる人材の確保・育成支援

文化芸術活動をささえる指導者、運営スタッフ、ボランティア、サポーター等の人材確保・育成のための取組を支援します。

文化芸術団体等との連携により、活動したい人材と、人材を必要とする団体とをつなぐ仕組みづくりを支援します。

■若い担い手や活動をささえる人材の活動の可視化

文化芸術活動に継続的に取り組む若い世代や、運営・ボランティア等として活動をささえる人材の取組を紹介し、活動を通じて得られる学びややりがい、人とのつながりも含めてその魅力を発信することで、新たな参加や次代への継承につなげます。

ウ 多様な協働の創出と活動環境の拡充

文化芸術活動を継続し、新たな活動へと広げていくためには、多様な主体がそれぞれの強みを活かしてささえ合うことが重要です。

大学や文化芸術団体、地域団体等との連携・協働を進め、文化芸術活動を継続するために、多様な主体のつながりから新たな活動が生まれる環境を整えます。

さらに、文京アカデミーを多様な人や活動がつながる基盤として活かし、新たな参加者、特に若い世代が継続して関われる環境づくりを進めます。

取組の例

■大学、文化芸術団体等との連携

区内大学や文化芸術団体等が持つ専門性や特色を活かし、学校や地域等とのつながりを広げながら、連携した文化芸術事業を展開します。特に、若い世代の関心、学びたいこと、得意分野と事業者側のニーズをつなぎ、企画・運営・広報等を実践的に経験できる機会を広げます。

■区民・団体との協働による文化芸術事業の推進

区民や地域の文化芸術団体等との協働により、それぞれの経験や知識を活かすとともに、個人や団体同士の新たなつながりや交流を生み出す文化芸術事業を推進します。

■文化芸術活動を継続するための支援

区民や文化芸術団体等が継続的に活動できるよう、活動や発表機会の提供に加えて、団体の運営や連携等も含め、活動の継続につながる支援を進めます。助成制度や寄付、企業などとの連携等、多様な支援の活用も図ります。

■文化芸術活動への新たな参加・交流の促進

これまで参加機会の少なかった区民や若い世代が新たに加わるきっかけをつくるとともに、既存の参加者や活動団体との交流を促進します。

情報発信や相談機能の充実、活動する個人、団体相互のつながりづくり等を通じて、新たな参加者が継続して活動できる環境を整え、活動の広がりや活性化、次代への継承につなげます。

③文化資源を活かした取組の強化

指標	現状値	目標値

ア さらなる文化資源の魅力の発信

区内に受け継がれてきた文化資源を未来へとつなぐためには、その価値や魅力を知り、関心を持つ人を増やしていくことが重要です。

歴史や文学、文化財等をテーマとした企画展等により、文京区ならではの多彩な文化資源の魅力を広く伝えます。

取組の例

■ 歴史・文学・文化財等の魅力発信

企画展等を通じて、文京区にゆかりのある様々な文化資源を紹介します。紙媒体とデジタル媒体を効果的に活用し、まだあまり知られていない文化資源を含めて、その価値や魅力を広く発信し、その理解を深め、次代への継承につなげます。

■ 若い世代の視点を活かした文化資源の魅力発信

学生をはじめとする若い世代が、自らの関心や学びとの結びつきから文化資源の魅力を発見し、企画や情報発信等を実践的に経験できる取組を支援します。若い世代にとって新たな学びや地域とのつながりとなるように、その視点や発想を活かし、これまで文化資源に関心の薄かった層にも魅力を届けます。

この推進にあたっては、区内の大学等と連携を図っていきます。

イ 資源の有効活用による体験・交流の推進

文化資源への理解や愛着を深めるためには、実際に見て、触れ、体験する機会が重要です。

文化資源を活かしたイベントや体験プログラムにより文化資源を通じた交流を促すことで、地域への理解と愛着を育みます。

取組の例

■文化財や地域資源を活用したイベントの実施

区内の文化財や地域に受け継がれてきた文化資源を活かし、気軽に参加できるイベント等を通じて、その魅力を身近に感じられる機会を提供します。屋外会場や飲食等を取り入れるなど企画も工夫し、特に次代を担う若い世代の参加を促します。

■地域資源を活用した体験プログラムの充実

歴史や文化、伝統等の地域資源について、実際に見て、触れ、学ぶことのできる体験プログラムを充実し、文化資源への関心を次の学びや活動につなげます。能楽堂等の地域の文化資源を巡るまち歩きと鑑賞・体験を組み合わせるなど、区の文化資源を活かした特徴ある内容を展開します。

学習活動分野の取組や学校等との連携を進め、継続的な体験を通じて文化資源への理解や愛着が次の学びや地域とのつながりへと広がる仕組みづくりを進めます。

■地域への愛着につながる文化芸術事業の展開

身近な文化資源を知り、体験する事業を通じて、地域の歴史や文化への理解を深め、区への愛着を育みます。また、地域の歴史や文化、伝統等の知識や経験を持つ人と、こどもや若い世代がともに学び、体験し、交流する機会をつくり、世代間のつながりと次代への継承につなげます。

ウ 分野間で連携した文化資源の活用

多彩な文化資源の価値をさらに高めるためには、様々な分野や主体とのつながりが重要です。

学習活動やスポーツ、観光、国内・国際交流の他分野との連携事業を進めるとともに、文化資源を多面的に活かす取組を推進します。また、必要に応じて教育・福祉等の関連領域との連携も図ります。

取組の例

■他分野との連携事業

学習活動やスポーツ、観光、国内・国際交流の他分野と連携し、それぞれの特色を活かしながら、文化資源に触れ、学び、地域を訪れるきっかけとなる取組を進めます。

■地域団体等と連携した文化資源の活用

地域団体や関係機関等と連携し、それぞれが持つ知識や資源を活かしながら、相互のつながりも意識した活用・発信を進めていきます。

■共通テーマを軸とした分野横断型プログラムの展開

文学、歴史、文化財等の文化資源を共通テーマとして、講座、まち歩き、鑑賞・体験、交流等を組み合わせ、複数の分野からその魅力を楽しめる企画を展開します。

大学等との連携を通じて、若い世代が自らの関心や学びを活かしながら、企画や実施を経験できる機会づくりにも取り組みます。